

# テセントリク



テセントリクによる治療を受けられる  
患者さんへ

# テセントリク ハンドブック

# はじめに

従来からの治療法である手術や放射線療法、薬物療法など、がんを直接治療する方法だけでなく、患者さん自身の免疫力を利用しがんを治療する‘がん免疫療法’も、がん治療の選択肢となりました。

ピーディーエルワン

テセントリクはがん免疫療法に使われる薬剤の中でも抗PD-L1抗体とよばれ、細胞障害性抗がん剤や分子標的抗がん剤のようながん治療薬とは異なるメカニズムで作用するお薬です。

このハンドブックでは、テセントリクによる治療を受ける方を対象に、テセントリクの作用、投与方法、副作用や、治療中の生活で注意していただきたい点を解説しています。

治療を始めるにあたり、不安に思うこと、分からぬことがあります。医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

# 目次

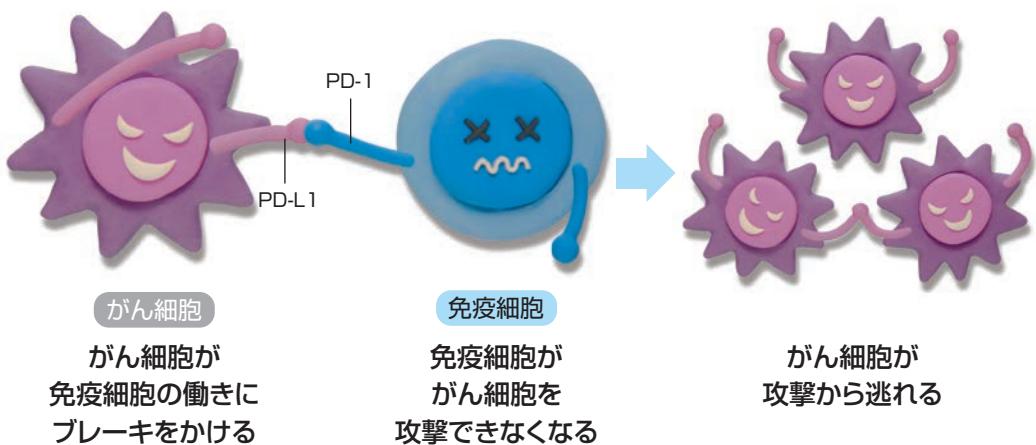
テセントリクの作用は?	6
テセントリク治療前に確認することは?	8
テセントリクの投与方法は?	9
テセントリクの副作用は?	10
テセントリクの注意を要する副作用	11
間質性肺疾患	14
肝機能障害、肝炎、硬化性胆管炎	15
大腸炎、重度の下痢	15
肺炎	16
1型糖尿病	16
甲状腺機能障害	17
副腎機能障害	18
下垂体機能障害	18
脳炎、髄膜炎、脊髄炎	19
神経障害	19
重症筋無力症	20
重度の皮膚障害	20
腎機能障害	21
筋炎、横紋筋融解症	21
心筋炎	22
血球貪食症候群	22
免疫性血小板減少症	23
溶血性貧血	23
薬剤の注入に伴う反応	24
発熱性好中球減少症	24
参考    注意が必要なテセントリクの副作用にみられる症状	26
副作用の重症化を防ぐために	30
治療期間終了後の注意点	32
緊急受診する場合の注意点	33
日常生活での注意点	35
治療中の妊娠と授乳について	36

# テセントリクの作用は？

私たちの体の中では、免疫細胞が、がん細胞などの異常な細胞を異物（自分以外のもの）として攻撃、排除し、健康を保っています。

しかし、がん細胞は免疫細胞の働きにブレーキをかけ、その攻撃から逃れることができ分かってきました。

がん細胞は、免疫細胞の働きにブレーキをかけるしくみの1つとして、がん細胞の表面に「PD-L1」という物質を出します。このPD-L1が、  
がん細胞を攻撃する免疫細胞の表面にある「PD-1」という物質に  
結合すると、免疫細胞の働きにブレーキがかかり、免疫細胞はがん細胞  
を攻撃できなくなってしまいます。



テセントリクは、抗PD-L1抗体とよばれるお薬です。

テセントリクはがん細胞の表面に出たPD-L1に結合することで、がん細胞から免疫細胞の働きにブレーキがかからないようにします。

この結果、免疫細胞は攻撃力を取り戻し、がん細胞を再び攻撃することができるようになります。



# テセントリク治療前に確認することは?

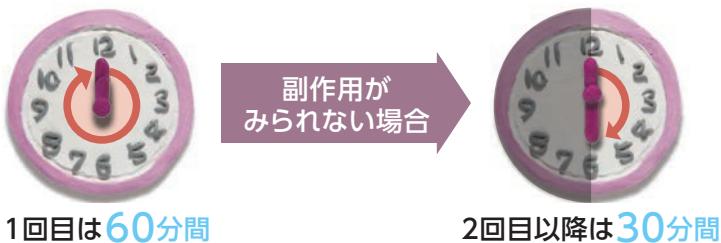
以下にあてはまる方は、  
治療を受ける前に医師にお知らせください。

- 以前にテセントリクに対して、強いアレルギー症状が出たことのある方  
→ テセントリクによる治療を受けることができません。
- 自己免疫疾患のある方、または慢性的もしくは再発性の自己免疫疾患にかかったことのある方  
→ テセントリクを投与すると自己免疫疾患の症状があらわれたり、悪化するおそれがあります。  
自己免疫疾患: 免疫細胞が、体を構成している正常な細胞を攻撃してしまう病気(関節リウマチ、乾癬、シェーグレン症候群など)
- 間質性肺疾患のある方、または間質性肺疾患にかかったことのある方  
→ テセントリクを投与すると間質性肺疾患の症状があらわれたり、悪化するおそれがあります。  
間質性肺疾患: 肺胞(空気中の酸素を取り込む器官)の壁やその周辺に、炎症が起こる病気

# テセントリクの投与方法は？

## ▶ 点滴により30～60分間で投与します

テセントリクは点滴で投与します。1回目の点滴は60分間かけて行われ、その際に特に副作用がみられなければ、2回目以降の点滴は30分間で行なうことができます。



## ▶ テセントリクには、2週間ごと、3週間ごと、4週間ごとに投与する方法があります。

テセントリクは、がん種や投与時期によってお薬の投与量や投与方法が異なります。

- テセントリクを2週間ごとに投与する場合、1回投与を受けた後は約13日間お休み(休薬)するという治療サイクルを繰り返します。
- テセントリクを3週間ごとに投与する場合、1回投与を受けた後は約20日間お休み(休薬)するという治療サイクルを繰り返します。
- テセントリクを4週間ごとに投与する場合、1回投与を受けた後は約27日間お休み(休薬)するという治療サイクルを繰り返します。

非小細胞肺がんの術後補助療法の場合は、12ヵ月間まで投与を繰り返します。

# テセントリクの副作用は？

テセントリクは免疫細胞を元気にして、がん細胞を攻撃する治療法であるため、免疫細胞の働きが強くなりすぎることによる副作用が起こる可能性があります。

副作用はすべての患者さんに起こるとは限らず、その症状の強さも人それぞれですが、治療が始まる前にどのような副作用が起こる可能性があるのかを知っておき、副作用と思われる症状があらわれた場合は、医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

テセントリクの治療期間中だけでなく、治療が終わった後にも副作用があらわれることがありますのでご注意ください。

# テセントリクの注意を要する副作用

- 間質性肺疾患  
こうかせいたんかんえん
- 肝機能障害、肝炎、硬化性胆管炎  
ごくうじんきのうしょうがい
- 大腸炎、重度の下痢  
すいえん
- 脾炎  
びえん
- 1型糖尿病  
こうじょうせんきのうしょうがい
- 甲状腺機能障害  
ふくじんきのうしょうがい
- 副腎機能障害  
かすいたいきのうしょうがい
- 下垂体機能障害  
すいまくえん　せきずいえん
- 脳炎、髄膜炎、脊髄炎  
のうえん、ずいもくえん、せきもくえん
- 神経障害  
じゅうしょくさんめいりょく
- 重症筋無力症  
じゆうじんきんむりょく
- 重度の皮膚障害  
じゆうしょくさんめいりょく
- 腎機能障害  
おうもんきんゆうかいしよう
- 筋炎、横紋筋融解症  
けいげん、よこもんきんゆうかいしよう
- 心筋炎  
けいきゅうどんしょくしようこうぐん
- 血球貪食症候群  
めんえきせいけしうばんげんしようしよう
- 免疫性血小板減少症  
めんえきせいけしゅくせんじゅうじょう
- 溶血性貧血  
とうけいせいけい
- 薬剤の注入に伴う反応  
やくざいのじゅちにともなうはんのう
- 発熱性好中球減少症※  
はつねつきょうぜんしゅうじょう

\*テセントリクと他のお薬と一緒に使った場合(カルボプラチニン及びパクリタキセル併用時並びにカルボプラチニン、パクリタキセル及びアバスチン併用時)にあらわれることがあります。

# テセントリクの注意を要する副作用

## ① 甲状腺

こうじょうせんきのうしょうがい  
**甲状腺機能障害** ..... P.17

## ② 心臓

心筋炎 ..... P.22

## ③ 肺

間質性肺疾患 ..... P.14

## ④ 肝臓

肝機能障害、肝炎、  
こうかせいたんかんえん  
硬化性胆管炎 ..... P.15

## ⑤ 副腎

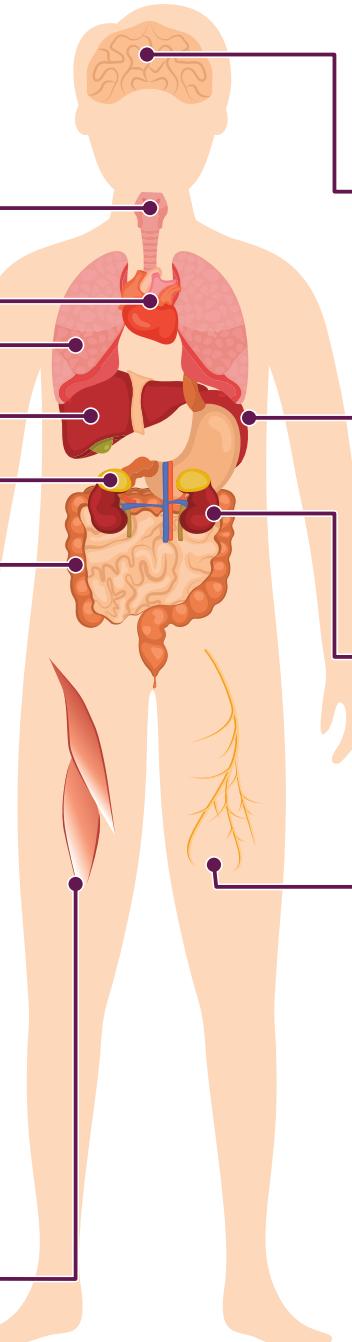
ふくじんきのうしょうがい  
**副腎機能障害** ..... P.18

## ⑥ 消化管

大腸炎、重度の下痢 ..... P.15

## ⑦ 筋肉

じゅうしょくさんむりょくしょう  
**重症筋無力症** ..... P.20  
おうもんきんゆうかいしょう  
**筋炎、横紋筋融解症** ..... P.21



## ◎ 脳

- かすいたいきのうしおうがい  
下垂体機能障害 ..... P.18  
ずいまくえん セキズイエン  
脳炎、髄膜炎、脊髄炎 ..... P.19

## ◎ 脾臓

- すいぞう  
脾炎 ..... P.16  
1型糖尿病 ..... P.16

## ◎ 腎臓

- 腎機能障害 ..... P.21

## ◎ 神経

- 神経障害 ..... P.19

## ◎ その他

- 重度の皮膚障害 ..... P.20  
けつきゅうどんしょくじょうぐん  
血球貪食症候群 ..... P.22  
めんえきせいいけしょうばんげんじょうじゅう  
免疫性血小板減少症 ..... P.23  
溶血性貧血 ..... P.23  
薬剤の注入に伴う反応 ..... P.24  
発熱性好中球減少症\* ..... P.24

\*テセントリックと他のお薬と一緒に使った場合(カルボプラチニン及びパクリタキセル併用時並びにカルボプラチニン、パクリタキセル及びアバスチン併用時)にあらわれることがあります。

# テセントリクの注意を要する副作用

副作用は、テセントリクによる治療期間中だけでなく、治療が終わつた後にもあらわれることがあります。注意が必要な副作用について、主な症状を紹介します。早期に発見し、適切に対処することが大切です。気になる症状がみられた場合は我慢せず、医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

## ▶ 間質性肺疾患

肺胞(空気中の酸素を血液に取り込む器官)の壁やその周辺に、炎症が起こる病気です。肺胞やその周辺に炎症が起こると血液に酸素が取り込めず、呼吸が苦しくなります。

間質性肺疾患は重症化した場合、命にかかることもありますので注意が必要です。

次のような症状がみられる場合があります。

- 息切れ、息苦しい
- 咳が出る
- 発熱



## MEMO

## ▶ 肝機能障害、肝炎、硬化性胆管炎

肝臓の機能が低下したり、肝臓や胆管に炎症が起こる病気です。血液検査では肝機能検査値(AST、ALT、ALP、γ-GTP、ビリルビンなど)が高くなります。

次のような症状がみられる場合があります。

- 体がだるい
- 発熱
- 吐き気、嘔吐
- 食欲がない
- 白目や皮膚が黄色くなる(黄疸)、尿が赤色になる
- かゆみ
- 腹痛



## ▶ 大腸炎、重度の下痢

大腸の炎症や、それによる重度の下痢が起こることがあります。

下痢を放置すると、脱水症状を起こすため、水分を多めにとるなどの注意が必要です。

次のような症状がみられる場合があります。

- いつもより排便回数が多い
- 便が泥状か水のようになっている、便に血が混じる
- 腹痛



## テセントリクの注意を要する副作用

### ▶ 脾炎

脾臓に炎症が起こる病気です。血液検査ではアミラーゼの増加やリパーゼの増加がみられます。お腹の痛みはのけぞると強くなり、かがむと弱くなります。

次のような症状がみられる場合があります。

- お腹の上部の痛み
- 背中の痛み
- 吐き気、嘔吐

### ▶ 1型糖尿病

脾臓からインスリンが分泌されなくなり、糖尿病を発症することがあります。インスリン注射による治療が必要になることもあります。急速に1型糖尿病が進行する場合があり、意識障害や、その前兆として吐き気や嘔吐があらわれることがあります。

次のような症状がみられる場合があります。

- |                                      |              |
|--------------------------------------|--------------|
| ■ 口が渴く                               | ■ 体重が減る      |
| ■ たくさんの水分が欲しくなる<br>(水分をとってもすぐにのどが渴く) | ■ 吐き気、嘔吐     |
| ■ 尿の量や回数が増える                         | ■ 腹痛         |
| ■ 疲れやすい                              | ■ 意識がはっきりしない |

## ▶ 甲状腺機能障害

甲状腺に炎症が起り、甲状腺ホルモンが過剰になる、または低下する病気です。甲状腺ホルモンが過剰になった後、低下する場合があるので注意が必要です。

次のような症状がみられる場合があります。

### <甲状腺ホルモンが過剰になることであらわれる症状>

- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| ■ 動悸         | ■ いつもより排便回数が多い    |
| ■ 暑がり、汗を多くかく | ■ 便が泥状か水のようになっている |
| ■ 発熱         | ■ 体重が減る           |
| ■ ふるえ        | ■ 体がだるい           |

### <甲状腺ホルモンが低下することであらわれる症状>

- |         |          |
|---------|----------|
| ■ 体がだるい | ■ 脈が遅くなる |
| ■ 食欲がない | ■ 体重が増える |
| ■ 便秘    |          |

### MEMO

## テセントリクの注意を要する副作用

ふくじんきのうしょうがい

### ▶ 副腎機能障害

副腎の機能が低下する病気です。血液中の副腎皮質刺激ホルモン、コルチゾールなどの測定を行い、診断します。

次のような症状がみられる場合があります。

- 気力の低下
- 血圧の低下
- 疲れやすい
- 腹痛
- 体重が減る
- いつもより排便回数が多い
- 食欲がない
- 便が泥状か水のようになっている
- 吐き気、嘔吐

かすいたいきのうしょうがい

### ▶ 下垂体機能障害

下垂体に炎症が起こり、下垂体の機能が低下する病気です。

次のような症状がみられる場合があります。

- 頭痛
- 尿の量や回数が増える
- 物が見えにくい
- 口が渴く
- 乳汁分泌
- たくさんの中水分が欲しくなる
- 体がだるい、疲れやすい
- 食欲がない
- 月経がない

### MEMO

すいまくえん せきずいえん

## ▶ 脳炎、髄膜炎、脊髄炎

脳や髄膜(脳や脊髄を覆っている膜)、脊髄に炎症が起こる病気です。

次のような症状がみられる場合があります。

- 発熱
- 頭痛
- 吐き気、嘔吐
- 意識がはっきりしない
- 両足のしびれ、両足が動かしづらい
- 便・尿が出にくい、便・尿失禁
- 腰・背中の痛み
- うなじがこわばり固くなって、首を前に曲げにくい

## ▶ 神経障害

全身の筋肉を動かす運動神経や皮膚の感覚などを伝える感覺神経、内臓の働きを調節する自律神経などの働きが悪くなる病気です。症状がひどくなると食べ物が飲み込みにくくなったり、呼吸が苦しくなることもあります。

次のような症状がみられる場合があります。

- 手足がピリピリしびれる、ジンジン痛む
- 手足の感覚がなくなる
- 手足に力が入らない
- 物がつかみづらい
- 歩行時につまづく
- 手足の皮膚が冷たい

## テセントリクの注意を要する副作用

### ▶ 重症筋無力症 じゅうしうきんむりょくしょう

神経から筋肉にうまく信号が伝わらなくなるために、筋力の低下が起こる病気です。

次のような症状がみられる場合があります。

- まぶたが下がったまま戻らない
- 物が二重に見える
- 手足に力が入らない
- 食べ物がうまく飲み込めない
- 息苦しい

### ▶ 重度の皮膚障害

発熱と広い範囲にわたる皮膚や粘膜の障害が起こることがあります。

次のような症状がみられる場合があります。

- |  |                 |
|--|-----------------|
| ■ 発熱                                   | ■ のどが痛む         |
| ■ 目の充血                                 | ■ 水ぶくれ          |
| ■ まぶたの腫れ                               | ■ 皮膚・粘膜のはがれ・ただれ |
| ■ 関節(手足の甲、ひじ、ひざなど)部分もしくは広範囲にわたり皮膚が赤くなる |                 |

### MEMO

## ▶ 腎機能障害

腎臓に炎症が起り、腎臓の機能が低下する病気です。血液検査ではクレアチニンなどの上昇がみられます。

次のような症状がみられる場合があります。

- |          |                   |
|----------|-------------------|
| ■ 発熱     | ■ 体がだるい           |
| ■ 発疹     | ■ 便が泥状か水のようになっている |
| ■ 関節痛    | ■ 尿の量が減る・増える      |
| ■ 吐き気、嘔吐 | ■ むくみ             |
| ■ 食欲がない  |                   |

## ▶ 筋炎、横紋筋融解症

筋肉の細胞が壊れることにより、痛みを感じたり力が入らなくなる病気です。血液検査ではクレアチニンキナーゼやミオグロビンの上昇がみられます。

次のような症状がみられる場合があります。

- |         |             |
|---------|-------------|
| ■ 発熱    | ■ 筋肉痛       |
| ■ 体がだるい | ■ 手足に力が入らない |
| ■ 疲れやすい | ■ 息苦しい      |
| ■ 食欲がない | ■ 尿が赤褐色になる  |
| ■ 体重が減る |             |

## テセントリクの注意を要する副作用

### ▶ 心筋炎

心臓の筋肉(心筋)に炎症が起り、心臓の機能が低下する病気です。血液検査ではクレアチニナーゼの上昇がみられます。

次のような症状がみられる場合があります。

- 胸の痛み
- 体がだるい、疲れやすい
- 息切れ、息苦しい
- 手足のむくみ
- 動悸

### ▶ 血球貪食症候群

免疫に関わる細胞が過剰に反応した状態が続くことで、血小板・赤血球・白血球などを食べてしまうような状態を引き起こし、さまざまな症状があらわれることがあります。急速に重症化した場合、命にかかわることもありますので注意が必要です。

次のような症状がみられる場合があります。

- 発熱
- 発疹
- 体がだるい、疲れやすい
- 腹痛
- いつもより排便回数が多い
- お腹が張る
- 出血、血が止まりにくい
- けいれん
- 顔のむくみ
- 便が泥状か水のようになっている

### MEMO

## ▶ 免疫性血小板減少症

免疫抗体の異常により、自己免疫が自身の正常な血小板を攻撃することで起こる病気です。その結果、出血を止める役割の血小板の数が減少し、出血しやすくなったり、出血が止まりにくくなったりします。

次のような症状がみられる場合があります。

- 点状や斑状の皮膚にみられる出血
- 青あざができる
- 歯ぐきからの出血、口内の出血
- 鼻血
- 便に血が混じったり、黒い便が出る
- 尿に血が混じって、赤色やピンク色、赤茶色など、通常とは異なる色になる
- 月経過多、経血が止まりにくい

## ▶ 溶血性貧血

赤血球が減少することにより、主に貧血を起こす病気です。

次のような症状がみられる場合があります。

- めまい
- 疲れやすい、だるい
- 動悸・息切れ
- 頭痛
- 顔が蒼白くなるあお
- 白目や皮膚が黄色くなる（軽い黄疸）
- 尿が赤くなる

### ▶ 薬剤の注入に伴う反応

点滴中または投与後に、アレルギーのような症状があらわれることがあります。これらの症状は、1回目の投与時にあらわれることが多いですが、2回目以降にあらわれることもあります。

次のような症状がみられる場合があります。

- 吐き気、嘔吐
- 注射部位のほてり、痛み
- かゆみ
- 息切れ、息苦しい
- 発熱
- 発疹



### ▶ 発熱性好中球減少症

体に侵入してきた異物(細菌、ウイルスなど)から体を守っている白血球・好中球が減少し、37.5°C以上に発熱した状態を呼びます。テセントリクと他のお薬と一緒に使った場合(カルボプラチナム及びパクリタキセル併用時並びにカルボプラチナム、パクリタキセル及びアバスチニブ併用時)にあらわれることがあります。

## MEMO

治療について

副作用について

主な副作用の症状一覧

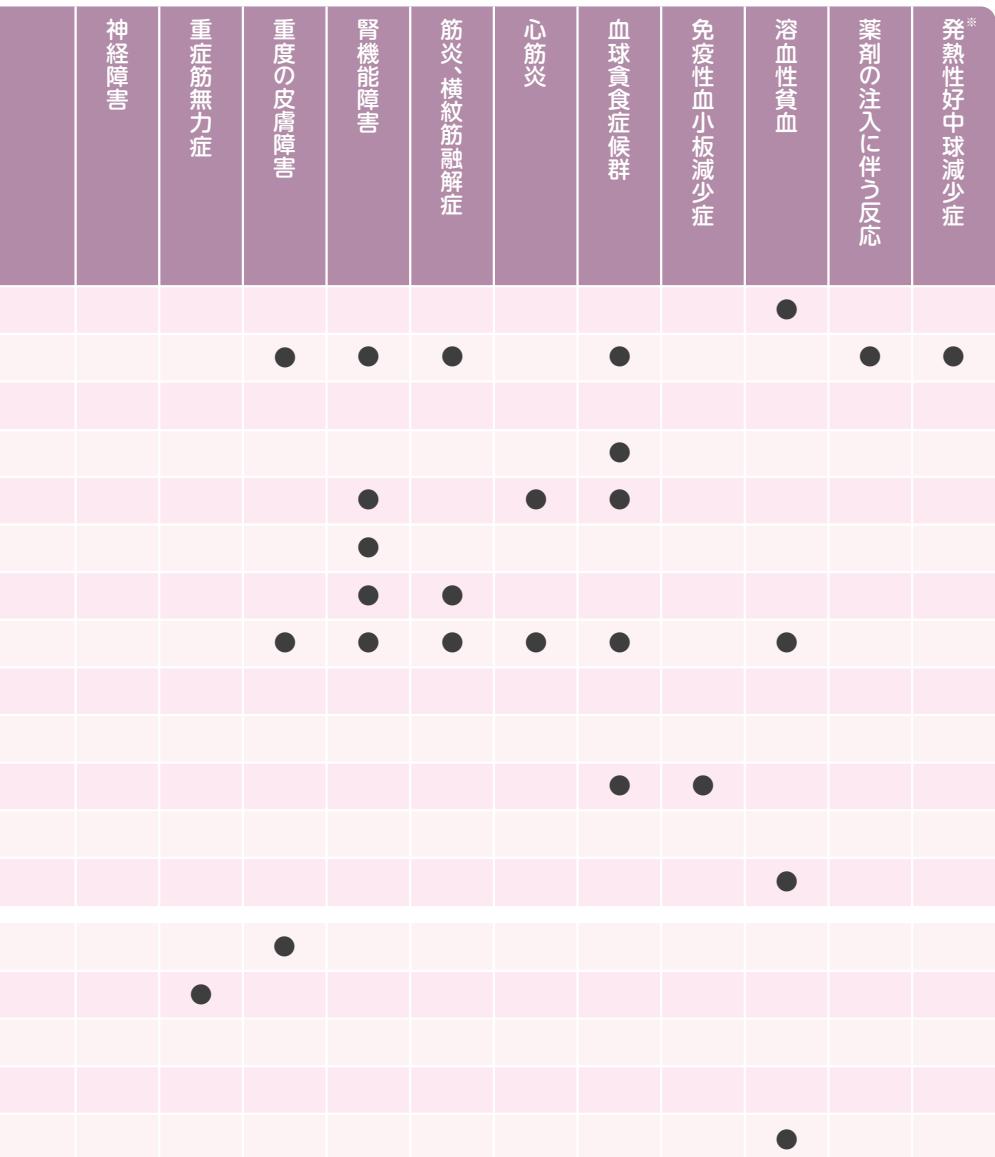
治療中・治療後の注意点について

# 注意が必要なテセントリクの副作用にみられる症状①:

## 全身、顔にみられるもの

症 状	間質性肺疾患	硬化性胆管炎	肝機能障害、肝炎、 硬化性胆管炎	大腸炎、重度の下痢	膀胱炎	1型糖尿病	内分泌機能障害	脳炎、髄膜炎、脊髄炎
頭痛								●
発熱	●	●				●	●	
意識がもうろうとする					●			●
けいれんが起きる								
むくみ								
体重増加						●		
体重減少					●	●		
体がだるい、疲れやすい	●	●		●	●	●		
ふるえ						●		
暑がり、汗を多くかく						●		
出血、血が止まりにくい								
腰・背中の痛み				●				●
めまい								
顔周りに出る症状								
目の充血						●		
物が見えにくい								
口が渴く			●			●		
うなじがこわばり固くなつて、首を前に曲げにくい								●
白目や皮膚が黄色く見える	●							

※テセントリクと他のお薬と一緒に使った場合(カルボプラチニン及びパクリタキセル併用時並びにカルボプラチニン、パクリタキセル及びアバスチン併用時)にあらわれることがあります。



注意が必要なテセントリクの副作用にみられる症状②:  
呼吸器、胃腸、手足、排泄でみられるもの

症 状		間質性肺疾患	硬化性胆管炎	肝機能障害、肝炎、 硬化性胆管炎	大腸炎、重度の下痢	膀胱炎	1型糖尿病	内分泌機能障害	脳炎、髄膜炎、脊髄炎
呼吸症状	咳が出る	●							
	息切れ、息苦しい	●							
	胸の痛み								
	動悸						●		
胃腸症状	腹痛		●	●	●	●			
	吐き気、嘔吐		●		●	●	●	●	●
	食欲がない		●				●		
手足に出る症状	手足やからだの一部の感覚がなくなる								
	手足に力が入らない								
	両足のしびれ、両足が動かしづらい								●
排泄症状	かゆみ、発疹、水ぶくれ		●						
	尿が赤くなる			●					
	尿の量や回数が増える						●		
	便・尿が出にくい、便・尿失禁								●
	排便回数が多くなる				●			●	
	血便				●				
	便秘							●	

※テセントリクと他のお薬と一緒に使った場合(カルボプラチニン及びパクリタキセル併用時並びにカルボプラチニン、パクリタキセル及びアバスチン併用時)にあらわれることがあります。

発熱性好中球減少症<sup>\*</sup>

薬剤の注入に伴う反応

溶血性貧血

免疫性血小板減少症

血球貪食症候群

心筋炎

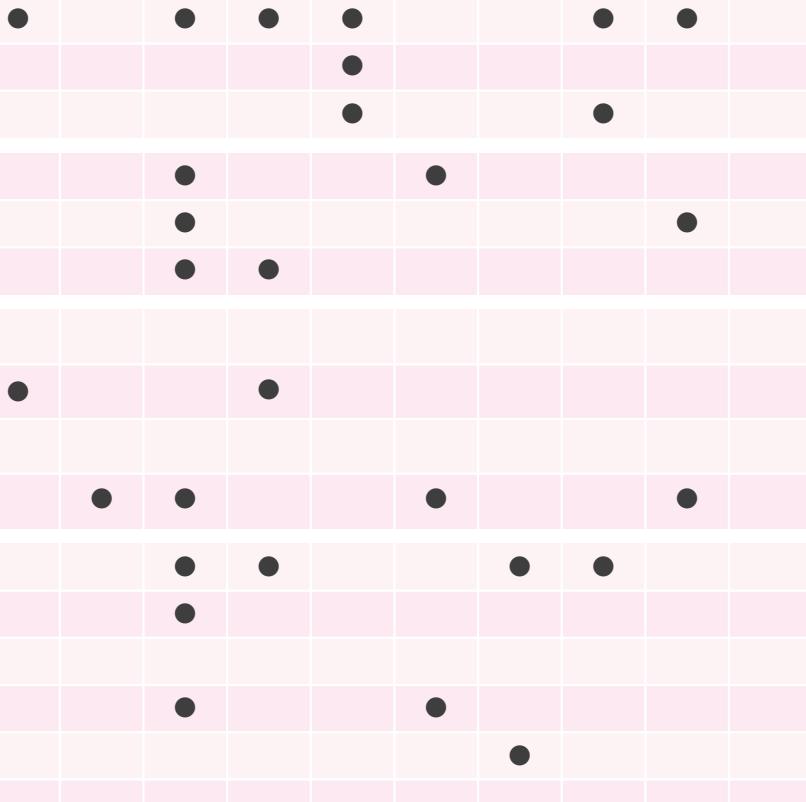
筋炎、横紋筋融解症

腎機能障害

重度の皮膚障害

重症筋無力症

神経障害



# 副作用の重症化を防ぐために

副作用は治療期間中だけでなく治療が終わった後にもあらわれることがあります。副作用の重症化を防ぐためには、副作用に早めに気づき、対応することが重要です。副作用に早く気づくために、普段の体調をきちんと把握しておきましょう。

医師に気になる症状を伝える際には、普段の体調とどのくらい違うのか、その症状によって日常生活にどのくらい支障が出ているのかを話すと、症状の強さを上手に伝えることができます。

ダイアリーにご自身の日々の体調を記入することで、普段の状態やその変化がより把握しやすくなります。体調がいつもと違うと感じたときは、ダイアリーを活用しながら、医師、看護師、薬剤師に相談することで、重症化する前に副作用に気づくことができ、適切な対応を開始することができます。

テセントリクによる治療を行う前に  
普段の体調をチェックしておきましょう。

例えば…

- |            |                     |
|------------|---------------------|
| ■ 平熱       | ■ 排便回数              |
| ■ 体重       | ■ 排尿回数              |
| ■ 視力       | ■ 呼吸器の症状(咳の回数や息苦しさ) |
| ■ 1日の飲料水の量 | など                  |

体調の変化に気づけるよう、体調チェックシートも活用してください。冷蔵庫など、毎日目にする場所に貼って、注意が必要な症状を見逃さないようにしましょう。

## <体調チェックシート>

**1日に1度  
テセントリクを使用されている方へ  
体調チェックしてみませんか？**

[監修] 静岡県立静岡がんセンター 化学療法センター長 新規治療開発科科長 岩佐部内科科長 村上 晴美 先生  
呼吸器科・新規治療開発科医師 看護部長 柳田 秀樹 先生  
薬剤部 金子 美智子 先生

初回投与後から、投与が終わった後にもこれらの症状があらわれることがあります。  
このような症状がみられた場合は、すぐに病院に連絡してください。

 <b>全身</b> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 38.0度以上の発熱がある</li> <li><input type="checkbox"/> 体がぐるぐると動かない</li> <li><input type="checkbox"/> 体の力が足りなくなったり</li> <li><input type="checkbox"/> 体臭が増えた</li> <li><input type="checkbox"/> いつもより歩くのが大変</li> <li><input type="checkbox"/> 体が黄色くなったり</li> </ul>	 <b>頭</b> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 多いがまよううめい</li> <li><input type="checkbox"/> 痒さはないかしない</li> <li><input type="checkbox"/> いつもの頭痛と比べてひどい痛みがある</li> </ul>	 <b>目</b> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> ものが二重に見える</li> <li><input type="checkbox"/> まぶたが下がったまま戻らない</li> <li><input type="checkbox"/> ものが見えにくく</li> </ul>	 <b>のど</b> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> のどが異常に渇き、たくさん水分が欲しくなる</li> <li><input type="checkbox"/> 食べ物がうまく飲み込めない</li> </ul>
 <b>胸</b> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 胸が増えたり、呼吸に影響がある</li> <li><input type="checkbox"/> くふくふく切れない</li> <li><input type="checkbox"/> 脳がどきどきしたり、鼓動がいつもより速い</li> </ul>	 <b>手 足</b> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 肌が急に赤くなったり</li> <li><input type="checkbox"/> いつもより皮膚の量や回数が増えた</li> <li><input type="checkbox"/> 肌がぐるくなったり</li> <li><input type="checkbox"/> 手足にしびれがある</li> <li><input type="checkbox"/> 手足に力が入らない</li> <li><input type="checkbox"/> 手足がふるえる</li> </ul>	 <b>胃 腸</b> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 腹痛が生活の妨げになっている</li> <li><input type="checkbox"/> 吐き気が1日に3回以上ある、もしくは普段より吐き気を強く感じる</li> <li><input type="checkbox"/> 食欲が低下し、食事量が減った</li> <li><input type="checkbox"/> 下痢が続いたり、普段よりも排便回数が多い</li> <li><input type="checkbox"/> 便に血が混じっている</li> </ul>	

いつもなんだか違う…  
気のせいかもしれないけど、なんだか違和感がある…  
その小さな気づきで、副作用の早期発見につながることがあります。  
ここに書かれている以外の症状が起こる可能性があります。  
気になることがある人は医療スタッフに相談ください。

上記の症状が認められた場合はこちらの施設へ連絡をお願いします。

 中外製薬株式会社  
 ロゴマーク  
 2025年3月作成  
 TEC0249.03

 welby  マイカルテONC  
 ロゴマーク  
 日々の体調の記録に便利なアプリの活用を呼びます。  
 詳細は、こちらよりアクセスください。  
 ロゴマーク  
 「アフリに関するお問い合わせ」  
 support@welby.jp

# 治療期間終了後の注意点

副作用は治療期間中だけでなく治療が終わった後にもあらわれることがあります。

治療が終わった後も「緊急連絡カード」を携帯し、体調不良などで医療機関を受診した際には、「テセントリクによる治療を受けていた」ことを必ず伝えるようにしてください。

## <緊急連絡カード>

### テセントリクの治療を受けた患者さんへ

このカードは、テセントリクの治療を受けた患者さんへの注意点をまとめています。常に携帯してください。

テセントリクの治療を受けた病院や主治医以外の治療を受ける場合は、このカードを必ずご提示ください。

### 患者さんにご注意いただきたいこと

●テセントリクによる治療期間中だけでなく治療が終わった後も注意が必要な副作用について、主な症状を裏面にご紹介します。早期に発見し、適切に対処することが大切ですので、裏面の症状に注意し、気になる症状がみられた場合は、医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

●主治医以外の医療機関を受診する場合は、このカードを提示して、テセントリクの治療中であることをお伝えください。

# 緊急受診する場合の注意点

治療期間中、治療が終わった後に緊急受診しなければならなくなつた場合に備えて、病院に連絡する際に何を伝えればよいか、どのように受診するかを考えておきましょう。また、「緊急連絡カード」は治療期間中、治療が終わった後も必ず携帯してください。

普段の生活に支障が出るほど体調が悪くなったときには、速やかに医療機関に連絡してください。

## ①連絡が必要な症状の一例

- 息切れ、息苦しい
- 経験がないほど激しい腹痛
- 頭痛、痙攣けいれん、意識障害
- 手足に力が入らない
- 激しい下痢(いつもより6回以上排便回数が増加)
- 口が渴く、たくさんの水分がほしくなる
- 動悸、胸が締めつけられるような痛み
- 38°C以上の発熱
- 強いだるさを感じる
- など

## 緊急受診する場合の注意点

- 病院に連絡する際、または受診の際には以下の内容を伝えましょう。
  - 氏名、通院している診療科
  - テセントリクによる治療を受けている(受けていた)こと
  - いつから、どのような症状が出ているのか
  - その症状によって、日常生活にどのくらい支障が出ているのか
- どのように受診するかを考えておきましょう。
  - 病院の連絡先(夜間の連絡先)は分かっていますか?
  - 自分だけで病院に向かうことができる交通手段がありますか?
  - 自分だけで病院に向かうことができない場合は、誰に連れて行ってもらいますか?

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

もしもし、○○科にかかっている○○です。  
テセントリクという薬で治療中なのですが…



# 日常生活での注意点

治療期間中および治療終了後に気をつけるべき点について、あらかじめ確認しておきましょう。

## ■ 食事

---

---

---

## ■ 運動

---

---

---

## ■ その他

---

---

---

---

---

---

---

---



## 治療中の妊娠と授乳について

妊娠中にテセントリクを投与した場合、お腹の赤ちゃんに影響を与える可能性があります。そのため治療期間中だけでなく、治療が終わつてから5ヵ月間は妊娠を避けてください。

妊娠していることが分かった場合は、主治医の先生に相談しましょう。また、授乳によりお薬の成分が赤ちゃんの体に入ってしまう可能性がありますので、治療中の授乳についても継続または中止を検討する必要があります。

治療を受けられる患者さん向けに、治療期間中の体調変化を記録するアプリがございますので、ご活用ください。



### ■ アプリ(WelbyマイカルテONC)に関するお問い合わせ先

登録方法、サービス内容など、ご不明な点はお気軽にご質問ください。スタッフがていねいに対応いたします。

**0120-095-655**

受付時間：平日10:00～17:30

**support@welby.jp**



運営会社 株式会社 Welby

テセントリクによる治療を受けられる患者さん向け  
webサイトもありますので、ご活用ください。



URL : <https://pat.tecentriq.jp/>

**MEMO**

**監修** (承認適応順)

静岡県立静岡がんセンター

化学療法センター長、新規治療開発科部長、呼吸器内科医長 **村上 晴泰** 先生

呼吸器科・新規治療開発科病棟 看護師長 **柳田 秀樹** 先生

薬剤部 **金子 美智子** 先生

名古屋市立大学大学院医学研究科 共同研究教育センター

臨床研究戦略部 先端医療・臨床研究開発学分野 特任教授 **岩田 広治** 先生

愛知県がんセンター

看護部 **高畠 知帆子** 先生

薬剤部 **前田 章光** 先生

国立研究開発法人 国立がん研究センター 東病院

副院長 肝胆膵内科長 **池田 公史** 先生



Roche ロシュ グループ